

令和6年度(2024年度)
京都市立芸術大学大学院音楽研究科入学試験
西洋音楽史

以下の4つの語群から最低2つずつ、合計10となるように選択し、簡潔に説明しなさい。人物名や作品名を選んだ場合は、西洋音楽史上の重要性についても触れること。解答用紙には、必ず選んだ語群のアルファベットと番号を記すこと。

語群 A

1. ムーシケー
2. ミサ曲
3. アルス・ノヴァ
4. 定旋律
5. バッラータ
6. 《涙のパヴァーヌ》

語群 B

7. マンハイム楽派
8. アルカンジェロ・コレッリ
9. 《天地創造》
10. 教会カンタータ
11. カメラータ
12. ジングシュピール

語群 C

13. 《冬の旅》
14. ニコロ・パガニーニ
15. 《魔弾の射手》
16. 交響詩
17. エドゥアルト・ハンスリック
18. グランド・オペラ (グラントペラ)

語群 D

19. 神秘和音
20. フランス6人組
21. 社会主義リアリズム
22. プリペアード・ピアノ
23. 《グルッペン》
24. ウォークマン (WALKMAN)

令和6年度(2024年度)

京都市立芸術大学大学院音楽研究科 修士課程 共通科目試験

日本音楽史

1. 次の文の(ア)から(ノ)に当てはまる語を、次頁の語群Aに記した語から選びなさい。

- (1) 平家琵琶の伴奏で平家物語を語る音楽は、「平家」「平語」「平曲」などと呼ばれてきた。これらの曲は、前田流を例にとると、伝授の制度によって分類される。まず、(ア)という最初に教習する曲群があり、その中には節物という叙情的な内容の曲や、(イ)という勇壮な合戦の場面を含む叙事的な内容の曲が含まれる。その上には伝授物(習物)とされる曲群があり、それらをすべて修得すると、平家物語の冒頭の有名な「(ウ)」という曲を含む「秘事」とされる曲に進む。
- (2) 室町時代末期に、九州久留米の善導寺の僧、賢順は、箏の伴奏による弾き歌いの歌曲を大成した。この流れが後に(エ)と呼ばれるようになった近世最初期の箏曲である。賢順の門弟の法水は、江戸に出て、盲人音楽家の(オ)(1615~85)に(エ)を伝授した。(オ)は、法水伝の箏曲を改革し、芸術的に発展させた。彼は、「箏組歌十三組」、「(カ)」「八段の調」「乱」などの(キ)、その他を作曲した。
- (3) 能は、(ク)、歌舞伎と並び、日本の三大演劇とされる。これらは、音楽と不可分に結びついているため、「楽劇」とも呼ばれる。能は、面をつけた役者が、語り、(ケ)という斉唱コーラス、(コ)という4種の楽器(能管、(サ)、(シ)、太鼓)による囃子によって舞う音楽仮面劇である。(ク)は、(ス)という浄瑠璃の語りと三味線によって物語が展開する音楽人形劇である。歌舞伎は、(セ)(ソ)(タ)などの三味線音楽を伴奏に役者が踊り演じる歌舞劇である。
- (4) 16世紀後半に堺に伝えられたという沖縄の三線は、胴の皮を(チ)から(ツ)に変え、胴の形や棹の形も変えた。それにより、琵琶用のものに似た(テ)を使う三味線が誕生した。三味線を使った最初期の芸術音楽は、(ト)という弾き歌いの歌曲であった。その最初の、最も古い曲群を(ナ)という。のちに作られた楽曲群を(ニ)といい、最初に作られた本来のもの、規範になるものと区別した。
- (5) 現在の雅楽は、中国系の(ヌ)と、朝鮮半島系の(ネ)に分類される。これらは、楽器編成や楽曲、舞を伴うか否かといった演奏形態が異なるが、すべての楽曲に共通して用いられるのが、ダブルリードの管楽器(ノ)である。

語群A

八雲琴、筑紫箏、唐楽、高麗楽、伎楽、文楽、地謡、長唄、八橋検校、生田検校、本手組、派手組、平物、段物、読物、拾物、四つ物、四拍子、三ノ鼓、小鼓、大鼓、箏、爪、バチ、猫革、蛇革、馬革、和紙、義太夫節、一中節、常磐津節、清元節、三味線声曲、三味線組歌、六段の調、祇園精舎、那須与一

2. 語群Bの中から、3つの語を選び、選んだ語の概要を1つずつ説明しなさい。1つあたり80～160字を目安とする。自身の経験や考えを交えて説明してもよい。

語群B

声明、神楽、琴楽、越天楽、催馬楽、大和楽、三曲、当道制度、尺八、民謡、十二律、序破急、夢幻能、普化宗、世阿弥、新内節、山田検校、浄瑠璃、新日本音楽、現代邦楽、小泉文夫、町田嘉章（佳声）

3. 現在行われている日本音楽の各種目は、それぞれ成立の時期が異なり、それぞれ変化や中断はあるものの、今日まで絶えることなく「並列的に共存」してきたものであるという特徴がある。この特徴について、具体的な種目、曲目、人名、その他の事柄を交えながら、日本音楽史に及ぼした影響や意義について説明しなさい。